（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和6年7月31日※1
（前回公表年月日：令和6年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京呉竹医療専門学校	昭和51年9月10日	村上　哲二	〒　160-0008 （住所）東京都新宿区四谷三栄町16番12号 （電話）03-3341-4043
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人　呉竹学園	昭和31年10月17日	理事長　坂本　歩	〒　160-0008 （住所）東京都新宿区四谷三栄町16番12号 （電話）03-3341-4043

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	鍼灸マッサージ科Ⅰ部	文部省告示第7号	ー

学科の目的	はり師，きゅう師及びあん摩マッサージ指圧師を養成するにあたり、高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為の人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	2910単位時間	1866単位時間	0単位時間	180単位時間	0単位時間	864単位時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
180人	166人	1人	19人	30人	49人

学期制度	■1学期：4月1日～7月31日 ■2学期：8月1日～11月31日 ■3学期：12月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準：　100点満点換算で60点以上を合格とする。 評価の方法：　100点満点換算で60点以上を合格とする。
長期休み	■学年始：－ ■夏　季：8月10日～8月25日 ■冬　季：12月25日～1月5日 ■学年末：3月25日～3月31日	卒業・進級条件	進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定する。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任制をとり、個別に学生の学業・生活等の相談を受けている。各科目の延べ欠席率が年間予定講義数の一定数に達した者には、段階に応じた注意を行っている。また、成績不良科目（60点未満）に対しては、再試験や補習を行い成績の向上を図っている。	課外活動	■課外活動の種類 （例）学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 呉竹医学会学術大会・体育大会・学園祭・東洋療法学校協会学術大会 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和5年度卒業生） 治療院、介護施設、一般企業、出張開業 等 ■就職指導内容 クラス担任制をとり、個別に学生の就職相談を受けている。また、求人検索システムにて、求人情報を閲覧できるようにしている。年に複数回、企業を招聘し就職相談会を開催している。 ■卒業者数　57　人 ■就職希望者数　47　人 ■就職者数　45　人 ■就職率　95.7　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　78.9　% ■その他 進学者数：10名 （令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報） 資格・検定名 / 種別 / 受験者数 / 合格者数 あん摩マッサージ指圧師 / ② / 57 / 55 はり師 / ② / 57 / 51 きゅう師 / ② / 57 / 52 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　8 名　■中退率　4.5 % 令和5年4月1日時点において、在学者178名（令和5年4月1日入学者を含む） 令和6年3月31日時点において、在学者170名（令和6年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更、病気・体調不良、家庭都合 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 退学については、月報にて要因および傾向をクラス毎に把握し、担任による面談や個別補習等を実施している。成績不良が中途退学の要因となることが多いため、入学前に行う入学前授業を通じて学習方法を指導し、入学後の成績不良者には補習、課題および個別指導を行っている。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度（前年度の学業成績および学術研究の評価により特に優秀で他の在校生の模範となる学生を対象とし進級年度の授業料の一部を免除）・学内進学奨学制度・卒業生奨学制度・経済的困窮者に対する学費減免制度（在学中に家計支持者が規程要件に該当し、審査の結果学費の減免が必要と認められた場合、授業料の一部を免除）・校友会推薦奨学制度（本学園の卒業生である校友会会員より推薦され入学した方に、入学金の一部を入学後に付与） ■専門実践教育訓練給付：　有 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 37名		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体：　受審年月：　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ		
当該学科のホームページURL	https://www.kuretake.ac.jp/department/massage		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野（医療）に関する業界のニーズ、人材の動向および最新の専門知識・技術等の把握を目的として施術所、医療機関、介護福祉施設、職能団体および学術団体等の役職者および有識者で構成される教育課程編成委員会を設置し、その見識および専門性を吸収して実践的かつ専門的な職業教育を推進するため、企業等と連携して教育課程の編成、授業科目の開発、授業内容の改善・工夫・評価等を行うことを基本方針とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

「教育課程編成委員会実施要項」に規定されているとおり、教育課程編成委員会は学科毎に校長が年2回以上開催する。教育課程編成委員は、職業実践専門課程の趣旨に基づき、専攻分野の知見を有する関係業界団体の役職者、関係施設の役職者および学内教職員の役職者、責任者（実習担当者およびカリキュラム担当者）等で構成され、教育方針、社会ニーズ、知識・技術の到達レベル等について意見交換を行う。その過程で得られた内容を「教育課程編成規則」に定める作業部会において審議し、校長の承認を経て次年度の教育課程編成及び授業実施計画に反映する。なお、実施状況や成果等については委員会にて科長が実施経過を報告する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小林 潤一郎	公益社団法人 東京都鍼灸師会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	①
瀧澤 一裕	公益社団法人 東京都柔道整復師会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	①
石川 英樹	全日本鍼灸マッサージ師会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	①
澤登 拓	株式会社フレアス　代表取締役社長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
猪野 幸峰	La PAZ 鍼灸院 代表	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
今井 賢治	帝京平成大学 ヒューマンケア学部 鍼灸学科 教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日	②
友枝 郁也	亀山整骨院　院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
甲野 功	あじさい鍼灸マッサージ治療院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	③
大饗 将司	acu.place自由が丘治療院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	②
村上 哲二	東京医療専門学校 校長		
建石 泰三	東京医療専門学校 事務長		
中村 真通	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長		
杉山 直人	東京医療専門学校 柔道整復科 科長・実技担当		
小川 裕雄	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ教員養成科 科長		
畠山 博式	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長補佐		
藤田 洋輔	東京医療専門学校 鍼灸マッサージ科/鍼灸科 科長補佐		
早川 幸秀	東京医療専門学校 柔道整復科 科長補佐		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （8月、1月）
（開催日時（実績））
第1回　令和6年8月27日（日） 14:00～16:00（予定）
第2回　令和7年1月21日（日） 14:00～16:00（予定）
（令和5年度の開催実績：令和5年8月29日（日）、令和6年1月30日（日））

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
1．実技・実習における対面形式、オンライン形式およびオンデマンド形式を活用したハイブリッド教育を促進する。
2．オンライン形式およびオンデマンド形式の授業について、質向上についての検討を行なう。
3．外部臨床実習の日程案について、可能な限り早期に実習先と調整を行う。
4．外部臨床実習の学生フォローアップとして、担当教員は臨床実習期間中に対面にて意見交換を行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
企業等との連携は、企業等の持つ専門性・技術・経験等を活用し、より実践的な教育効果を得るために行い、関連する業界等の社会のニーズを捉え、卒前教育として基礎的な知識を得ることを目的として行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
実技実習の講師には、企業等で活躍する現場の施術者で教員資格を有する者を招聘している。当該講師が施術に関する実践的な授業を行うとともに、学期毎に試験および評価を行いその学修成果を把握している。また、大学における解剖見学実習など授業時間外の実習を実施し、医学知識の更なる理解を目指している。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
あん摩マッサージ指圧実技Ⅱ－1	あん摩マッサージ指圧師が医療人であるという自覚を促し、衛生観念をはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、マッサージ施術時の環境設定、リスクマネジメントなど施術者としての基本的な注意事項について学習する。導入は術者の姿勢、位置、体重移動など基本動作を、各基本手技練習を中心に理解、実践できるような学習を行う。前期途中から身体部位の施術手順に従って、各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。	ワキ鍼灸マッサージ整骨院
はりきゅう基礎実技Ⅰ	はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な鍼灸施術動作を行えることを目的に行う	岩元鍼灸院 接骨院
はりきゅう応用実技Ⅱ	前期は循行経脈を用いた治療が行えるように能力の向上をはかる。後期では舌診・腹診・脈診と奇経八脈治療を学習する。これにより全身的な鍼灸治療を行う。また、隔物灸、灸頭針など治法に応じた鍼灸療法として学ぶ。	グリーンリーフ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では、学校法人呉竹学園研修規程に基づき、教職員の専門性向上および人材育成を目的として計画的に研修を受講させ、同時に自己啓発により自ら学ぶことを奨励する。また、教職員に対して恒常的に関連分野の先端知識に触れる場を提供することによって資質の向上を図り、ひいては教育目標の実現に努める。なお、本校は研修および自己研鑽による教職員のスキルアップを評価し、考課を行う。			
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等：	（公社）全日本鍼灸学会
期間：	令和5年6月9日～11日	対象：	専任教員
内容	医療機関、大学、関係団体等に所属する著名な有識者による講演やパネルディスカッション等を通して、鍼灸医学に関する知見を深める。		
研修名：	呉竹医学会学術大会	連携企業等：	医療機関・大学・施術所等
期間：	令和5年9月30日	対象：	専任教員
内容	医療機関、大学、施術所等の関連施設で勤務する著名な臨床家や研究者を講師として招聘し、専攻分野を含む医学全般に渡って最新の知見を獲得する。		
研修名：	東洋療法学校協会学術大会	連携企業等：	（公社）東洋療法学校協会
期間：	令和5年10月13日	対象：	専任教員
内容	東洋医学の発展と向上を図るとともに、専攻分野の学術の振興に資するため、特別講演、教育講演、ポスター発表、口頭発表等を通じて専攻分野の知見を深める。		
研修名：	卒後臨床講習会	連携企業等：	医療機関・施術所等
期間：	通年※新型コロナウイルス感染症により中止	対象：	専任教員
内容	臨床で活躍する施術者を講師として招聘し、実践的・専門的な知識・技術を修得することで、臨床力の向上を図る。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	東洋療法学校協会教員研修会	連携企業等：	（公社）東洋療法学校協会
期間：	令和5年8月24日～25日	対象：	専任教員
内容	あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの教育における教員の教授力向上、教育方法・学生指導方法の改善及び教員の資質向上等を図る。		
（3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等：	（公社）全日本鍼灸学会
期間：	令和6年5月25日～26日	対象：	専任教員
内容	医療機関、大学、関係団体等に所属する著名な有識者による講演やパネルディスカッション等を通して、鍼灸医学に関する知見を深める。		
研修名：	呉竹医学会学術大会	連携企業等：	医療機関・大学・施術所等
期間：	令和6年9月28日	対象：	専任教員
内容	医療機関、大学、施術所等の関連施設で勤務する著名な臨床家や研究者を講師として招聘し、専攻分野を含む医学全般に渡って最新の知見を獲得する。		
研修名：	東洋療法学校協会学術大会	連携企業等：	（公社）東洋療法学校協会
期間：	令和6年10月10日	対象：	専任教員
内容	東洋医学の発展と向上を図るとともに、専攻分野の学術の振興に資するため、特別講演、教育講演、ポスター発表、口頭発表等を通じて専攻分野の知見を深める。		
研修名：	卒後臨床講習会	連携企業等：	医療機関・施術所等
期間：	通年	対象：	専任教員
内容	臨床で活躍する施術者を講師として招聘し、実践的・専門的な知識・技術を修得することで、臨床力の向上を図る。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名：	東洋療法学校協会教員研修会	連携企業等：	（公社）東洋療法学校協会
期間：	令和6年8月8日～9日	対象：	専任教員
内容	あん摩マッサージ指圧・はり・きゅうの教育における教員の教授力向上、教育方法・学生指導方法の改善及び教員の資質向上等を図る。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、学校が自ら行った自己点検・自己評価の精度の向上と学校運営における連携・協力の促進を図ることを目的として行う。学校は毎年学校関係者評価を行い、自己評価と共に公表する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①理念・目的・育成人材像は定められているか②学校における職業教育の特色は何か③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか④理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているかどうか⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
（2）学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか②運営方針に沿った事業計画が策定されているか③運営組織や意志決定機能は、規則等においてめ明確化されているか、有効に機能しているか④人事、給与に関する制度は整備されているか⑤教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか⑦情報システム化による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	①教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか④実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか⑤関連分野の企業・関連施設等、業界団体等のニーズを踏まえた教育活動がされているか⑥・関連分野における実践的な職業教育（医療機関との連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか⑦授業評価の実施・評価体制はあるか⑧学生の研究に対する支援体制はあるか⑨職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか⑩成績評価・単位認定の基準は明確になっているか⑪資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか⑫人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか⑬関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・業務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか⑭関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか⑮職員の能力開発のための研修等が行われているか
（4）学修成果	①就職率の向上が図られているか②資格取得率の向上が図られているか③退学率の低減が図られているか④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
（5）学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか②学生相談に関する体制は整備されているか③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか④学生の健康管理を担う組織体制はあるか⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか⑥学生の生活環境への支援は行われているか⑦保護者と適切に連携しているか⑧卒業生への支援体制はあるか⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか⑩高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか⑪国家試験不合格者に対する支援体制はあるか
（6）教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか③防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか③学納金は妥当なものとなっているか
（8）財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか③財務について会計監査が適正に行われているか④財務情報公開の体制整備はできているか
（9）法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか④自己評価結果を公開しているか
（10）社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか②生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか④地域との連携・交流をしているか
（11）国際交流	該当なし

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

東洋医学を学びたいが卒業後の将来が見えないため進学を諦めている社会人が一定数あるとの意見があり、社会人のキャリアチェンジおよびキャリアアップに特化したパンフレットを作成し、また本校を卒業して1年から3年の方を取り上げた雑誌を刊行した。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
岩元 健朗	岩元鍼灸院接骨院　院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員（鍼灸業界）
大竹 健一	株式会社ケッズトレーナー 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員（鍼灸業界）
石川 慎太郎	東京有明医療大学 保健医療学部鍼灸学科 准教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日	大学教員
吉﨑 正恒	東京都立東大和高等学校 講師	令和6年4月1日～令和7年3月31日	高校教諭
西沢 正樹	江戸川橋はりきゅう整骨院 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員（柔道整復業界）
星野 博子	株式会社キノワ　代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	卒業生
深澤 栄一	小渕沢治療室 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	在校生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
ホームページ
URL：　https://www.kuretake.ac.jp/about/evaluation
公表時期：　令和6年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
学校関係者評価は、学校が自ら行った自己点検・自己評価の精度の向上と学校運営における連携・協力の促進を図ることを目的として行う。学校は毎年学校関係者評価を行い、自己評価と共に公表する。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校概要、設置目的、教育理念、運営方針、校長名、所在地、連絡先、沿革等
（2）各学科等の教育	各科の概要（定員・修業年限等）、カリキュラム、シラバス、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、取得資格率、卒業者数、就職率等
（3）教職員	教職員数、教員プロフィール等
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育の取組及び実施報告、就職支援等
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動等
（6）学生の生活支援	指定学生寮、健康管理、学生相談等
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金・教育ローン、学校独自の奨学金、経済的支援措置等
（8）学校の財務	事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、監査報告書
（9）学校評価	自己点検自己評価および学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	上海中医薬大学学術交流
（11）その他	職業実践専門課程の基本情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
ホームページ
URL：　https://www.kuretake.ac.jp/about/evaluation
公表時期：　令和6年10月31日

授業科目等の概要

	（医療専門課程　鍼灸マッサージ科Ⅰ部）令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			総合基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	[授業概要]理論的思考力を育て、豊かな人間性を養い、さらに医の倫理や人の尊厳などについての現代人としての教養を高める。 [一般目標(GIO)] 科目ごとに設定する。（英語異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・中国語・実践国語・健康科学・人体の科学・コミュニケーションA・コミュニケーションB） [到達目標(SBOs)] 科目ごとに設定する。（英語異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・中国語・実践国語・健康科学・人体の科学・コミュニケーションA・コミュニケーションB）	1・2・3	210	14	○			○			○	
2	○			構造機能学Ⅰ-1	[授業概要]･個体の生命を維持するために必要な、人体の構造と機能の基本知識を習得する。 [一般目標(GIO)]･個体の生命を維持するための器官の構造と働きを理解する。 [到達目標(SBOs)]･循環器(脈管)の構造と機能を説明できる。･呼吸器について構造と機能を説明できる。･消化器の構造と機能について説明できる。	1	48	2	○			○			○	
3	○			構造機能学Ⅰ-2	[授業概要]･正常な人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の概要について､1年次に学んだことをさらに発展させて講義を行う。 [一般目標(GIO)]･1年次に学んだ循環器と､感覚器の構造と機能が､どのように疾患と結びつくか理解する。 [到達目標(SBOs)]･循環器における代表的な疾患について､その成り立ちと主要症候を説明することができる。･感覚器について特徴的な構造と機能を説明できる。	2	24	1	○			○		○		
4	○			構造機能学Ⅰ-3	[授業概要] ･1年次､2年次に学んだ正常な人体の構造と機能を基に､鍼灸臨床に活かせる解剖学・生理学を統合して学習する。 [一般目標(GIO)] ・解剖学総論・内臓系・内分泌系・脈管系の正常構造について復習する。 [到達目標(SBOs)] ･人体を構成する細胞と組織の分類ができる。 ･循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系の説明ができる。	3	24	1	○			○			○	
5	○			構造機能学Ⅱ-1	[授業概要] ･身体を構成する運動器の基礎的な構造と機能を習得すると共に運動に関わる神経との関連を･理解できる様にする。 [一般目標(GIO)] ･人体を構成している骨格､筋肉についての基本構造や役割について理解することにより､運動器の症状に対し､障害されている筋･関節を推測できる様にする。 [到達目標(SBOs)] ･全身の基本骨格の名称を述べることができる。･関節の形態と運動の仕組みを理解できる。･骨格筋の	1	72	3	○			○		○		

6	○			構造機能学Ⅱ-2	[授業概要] ･頭部の基礎的な構造と機能を習得する。 ･筋と運動のしくみを理解する。 [一般目標(GIO)] ･頭部の骨格、筋肉についての基本構造や役割について理解する。さらに、構造機能・運動学の知識を基に、筋と運動、反射について理解する。 [到達目標(SBOs)] ･頭蓋骨の特徴と孔について名称と役割を述べることができる。 ･頭頸部の筋・脈管・神経の名称と役割を説明できる。 ･骨格筋の興奮収縮連関とエネルギー代謝について説明できる。 ･反射と中枢の調節について具体的に説明できる。	2	24	1	○			○			○	
7	○			構造機能学Ⅱ-3	[授業概要] ･鍼灸臨床に活かせる解剖と生理学を統合して学習することを目的とする。 [一般目標(GIO)] ･体表解剖について理解し説明できる。 ･神経系、運動系の正常構造について復習し、治療に行かせる知識を習得する。 [到達目標(SBOs)] ･末梢神経の概要を図示できる。 ･上肢・上肢帯、下肢・下肢帯の筋と支配神経、作用を述べることができる。 ･体幹の体表解剖を理解し、筋・骨・支配神経の作用を述べることができる。 ･頭頸部の体表解剖を理解し、筋・骨・支配神経の作用を述べることができる。	3	24	1	○			○		○		
8	○			構造機能学Ⅲ-1	[授業概要] ･生命の連続性と恒常性の維持に関与する構造と機能について理解する。 [一般目標(GIO)] ･生殖と発生、成長と老化、恒常性の維持に関与する器官の構造と機能を理解する。 [到達目標(SBOs)] ･人体を構成する細胞の構造と小器官の機能を説明し、細胞外液の特徴を挙げることができる。 ･細胞分裂、生殖と発生、胚葉形成について説明できる。生殖器について構造と機能を説明できる。 ･成長と老化について特徴を挙げることができる。 ･神経系を分類し、その働きを説明できる。特に自律神経の特徴と働きを説明できる。 ･内分泌系の特徴と具体的なホルモンの働きを説明できる。	1	72	3	○			○		○		
9	○			構造機能学Ⅲ-2	[授業概要] ･構造機能学と病理学の知識を基に、現代医学的理論に基づいた治療を考えられることを目的とする。 [一般目標(GIO)] ･人体の構造と機能の正常な状態と、病的な状態を理解する。 ・疾病の成り立ちと形態学的特徴を理解する。 [到達目標(SBOs)] ･心周期と心電図の関連と循環の調節について説明できる。 ･生体の免疫反応、炎症の仕組みと免疫異常による病態を説明できる。 ･主な内分泌腺の位置と分泌されるホルモン、さらにホルモンの分泌以上について具体例を挙げて説明できる。 ･自律神経の作用と病態を関連付けることができる。	3	24	1	○			○			○	

10	○			臨床医学Ⅰ	［授業概要］ ･感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患および消化器系疾患について、各々病態別分類、代表的疾患、疫学、診断および治療を概説する。 ［一般目標］ ･感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患および消化器系疾患について、各々病態別分類と代表的疾患（診断名）について説明できる。 [到達目標(SBOs)] ･心疾患の病態と主要徴候について説明できる。 ･血液の疾患について具体的に原因疾患と特徴を説明できる。 ･感染症について概要を説明できる。 ･呼吸器疾患について具体例を挙げて説明できる。 ･呼吸器、消化器の悪性腫瘍について特徴を説明できる。 ･消化器疾患について種類を挙げて各々の特徴を説明できる。	2	48	2	○			○		○		
11	○			臨床医学Ⅱ	［授業概要］腎・泌尿器疾患、内分泌疾患、代謝疾患、および免疫異常・膠原病（アレルギーを含む）について病態別分類、代表的疾患、疫学、診断および治療を概説する。 診断に用いられる主要な臨床検査項目について概説する。 ［一般目標］腎・泌尿器疾患、内分泌疾患、代謝疾患、および免疫異常・膠原病（アレルギーを含む）について、各々病態別分類と代表的疾患（診断名）について説明できる。 主要な臨床検査項目について診断的意義を説明できる。 ［到達目標（SBOs）］ ･腎・泌尿器疾患について分類し、原因をお下手説明できる。 ･代表的な内分泌疾患について、その成り立ちと主要症候を説明することができる。 ･代謝性疾患について、その成り立ちと主要症候を説明することができる。 ･代表的なアレルギー及び自己免疫疾患について特徴を述べることができる。	2	24	1	○			○		○		
12	○			臨床医学Ⅲ		2	24	1	○			○				
13	○			臨床医学Ⅳ	[授業概要] ･神経痛・機能性疾患、一般外科、麻酔科、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科および小児科疾患について、 各々病態、疫学、診断および治療を概説する。 [一般目標(GIO)] ･神経痛・機能性疾患、一般外科、麻酔科、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科および小児科疾患について、 各々病態、疫学、診断および治療を説明できる。 [到達目標(SBOs)] ･末梢神経疾患、および頭痛の分類について説明できる。 ･損傷概論、ショック、救急処置、心肺蘇生について説明できる。 ･麻酔について説明できる。 ･婦人科疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患について具体的に説明できる。 ･神経症、心身症などについて説明できる。	2	24	1	○			○		○		

14	○			臨床医学Ⅴ	[授業概要] ･臨床の際に必要となる代表的疾病について基本的な理解を促すとともに、それまでの学習内容を振り返り発展と応用に結びつける。 　新たな学習範囲としては、末梢神経疾患、神経痛、頭痛、小児科疾患、一般外科、麻酔科の概要、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、精神科・心療内科疾患および老年医学の概要について解説する。 [一般目標(GIO)] 小児科領域における代表的な疾患、末梢神経疾患、神経痛、頭痛、一般外科（外傷・熱傷・出血・ショックおよび救急時の処置）、麻酔の目的と種類、婦人科領域における代表的な疾患、皮膚科・眼科および耳鼻科領域における代表的な疾患、精神科・心療内科で扱う代表的な疾患について、各々病気の概要（成り立ち、症状および治療）を理解させる。 　老年期の代表的な疾患・症候およびそれらの予防について、概要を理解させる。 [到達目標(SBOs)] ･末梢神経疾患、および頭痛の分類について説明できる。 ･損傷概論、ショック、救急処置、心肺蘇生について説明できる。 ･麻酔について説明できる。 ･婦人科疾患、皮膚疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患について具体的に説明できる。 ･神経症、心身症などについて説明できる。 ･老年期の身体・心理特性、症候、および予防について説明できる。 ･小児疾患の概略を理解し説明することができる。	3	72	3	○			○		○		
15	○			病理学	[授業概要]疾病の成り立ちを､細胞･組織ﾚﾍﾞﾙで理解する。 [一般目標(GIO)]疾病の原因と､それにともなう細胞･組織の変化に関する知識を習得する。 [到達目標(SBOs)]･疾病の概念を説明できる。･疾病の内因と外因について､具体例を挙げることができる。･退行性病変について分類し､それぞれ細胞･組織の状態を具体的に説明できる。･循環障害の分類と､具体的な症状を挙げることができる。･進行性病変について分類し､それぞれ細胞･組織の状態を具体的に説明できる。･炎症の機序を説明できる。･免疫の機構とｱﾚﾙｷﾞｰについて説明できる。･腫瘍形成の仕組みと､腫瘍の具体例を挙げることができる。･代表的な遺伝性の疾患について機序を説明できる。･先天性異常について例を挙げることができる。	2	48	2	○			○			○	
16	○			診療の基本-1	[授業概要] ・疾患の鑑別に必要な検査を行うにあたり、その基礎となる筋・神経及び反射に 　ついて、理解するための講義を行う。 ・徒手検査の機序を理解する。 ・バイタルサインについて理解する。 [一般目標(GIO)] ・ヒトの運動と反射の仕組みを理解する。 ・筋と運動を理解することで、臨床における検査の意義を考える。 ・診療に必要なバイタルサインを理解する。 [到達目標(SBOs)] ･骨格筋の構造と興奮収縮連関について説明できる。 ･筋運動のエネルギー代謝について説明できる。 ･反射の仕組みを図を描いて説明でき、さらに腱反射を実際に測定できる。 ･運動にかかわる中枢と、伝導路について説明でき	1	24	1	○			○			○	

17	○			診療の基本-2	[授業概要] 診察から治療までの過程に必要な病気と症状を捉える医学的知識、かつ正しい所見を得るための正確な検査技能を概説する。 [一般目標(GIO)] ・疾患の症状や経過、および他の疾病との鑑別を理解する。 ・臨床における病態把握、適不適応疾患の鑑別を理解する。 ・疾患の重症度や回復度などの評価を理解する。 [到達目標(SBOs)] ･リハビリテーションの概念、歴史、医療における位置づけを説明できる。 ･障害の概念、チームアプローチについて説明できる。 ･医学的リハビリテーションについて具体的に説明できる。 ･技師装具、リハ看護、その他の治療法について説明できる。 ・全身診察に必要な項目にについて説明できる。	2	72	3	○			○		○		
18	○			保健医療福祉学	[授業概要]･はり師きゅう師、あんまﾏｯｻｰｼﾞ指圧師に必要な倫理と心構えを養い、現代のはき師を取り巻く環境と将来像について概観し、専門職上の責任を全うできる鍼灸師を育成する。また、公衆衛生の基本となる考え方を学ぶ。 [一般目標(GIO)]･わが国の社会保障制度と予防医学の重要性を理解し、自身の行動を律するための基準や規範を示す職業倫理を身につけることにより、はき施術を通して社会貢献できるようにする。 [到達目標(SBOs)]･社会保障(保健･医療･福祉･介護)制度の概要を理解し、国民の健康増進との関連を考察できる。･人を対象とした疾病の予防･健康増進について理解し、説明できる。･集団の健康健康状態の把握に必要な指標を読み取ることができる。･個人情報の利用目的を説明し、職務上で知り得た個人情報について、守秘義務･個人情報の保護に努めることができる。･自己の能力や患者に対する責任を認識した上で、はきの実践を行うことができる。･はきが関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。･社会のﾆｰｽﾞに対応できるはき技術の修得に積極的に携わるとともに、専門職能団体などの組織が行う活動を通して、よりよい社会づくりに寄与することができる。	1	72	3	○			○			○	
19	○			東洋医学概論-1	[授業概要] ・基礎学習の骨組みとなる東洋医学の意義を理解し東洋医学の生理・病理の特徴やシステムついて理解する。 ・疾病の原因やその症状を考察し臨床に使用できる能力を身につける。 ・２年次に行う臨床科目と結びつくように陰陽五行学説から蔵象学、病因病機を主体に展開していく。 [一般目標(GIO)] ･東洋医学における哲学的理解をするとともに基礎概念である気血津液、陰陽五行などをを理解をするとともに、病因病機の機序を理解し説明することができる。 [到達目標(SBOs)] ･東洋医学の歴史を理解し説明ができる。 ･日本の伝統医学と中医学の違いを理解し説明できる。 ･東洋医学の基礎となる陰陽論、五行説を理解し説明できる。 ･気血津液、蔵象の生理・病理･病証を理解し説明	1	72	3	○			○		○		

20	○			東洋医学概論-2	[授業概要] ･1, 2年時にに学習してきた東洋医学概論の基礎的な知識を統合し臨床に応用できるようになるための､総合学習をする。 [一般目標(GIO)] ･東洋医学の理念に基づいた弁証概念、治療原則、弁証論治を理解し臨床に応用できる。 要穴の種類と部位と解剖学的関連を理解する。 ･１年次・２年次に修得した単元を復習し、応用能力を身につける。 [到達目標(SBOs)] ･経絡弁証の応用ができる。 ･治療に即した刺法、補瀉法、難経六十九難、七十五難を説明できる。 ･湯液の原則を挙げることができる。 ･治療につながる東洋医学的考え方と、治療穴を関連付けることができる。	3	48	2	○			○		○		
21	○			経絡経穴概論-1	[授業概要] ･経絡経穴の歴史的背景から概要､経穴の取り方に必要な用語の理解をした上で､十四経脈上の経穴の順番と部位を理解する。 [一般目標(GIO)] ･経絡経穴の成り立ちから､要穴の意義や意味を理解近いし､十四経脈上にある経穴の場所と順番を理解し､説明できる。 [到達目標(SBOs)] ･経絡経穴と臓腑の関係を説明できる。 ･正経､奇経その他の経絡について説明できる。 ･要穴表を書くことができる。 ･経穴を取穴するに必要な体表解剖部位や骨度法、同身寸法などを挙げることができる。 ･正経十四経脈の流注と経穴を読み、書くことができる。	1	72	3	○			○			○	
22	○			経絡経穴概論-2	[授業概要] 臨床経験を活かした実践的臨床的なつながりをも経絡経穴の学習をおこなう。１年次・２年次に学習した経絡経穴概論の知識を総合して臨床能力に応用できる知識を身につける。 [一般目標(GIO)] 各経脈の取穴部位の確認とその解剖部位の関連性を復習し、総合的な理解と解釈ができるようになる。 ・十四経脈の取穴をすることができる。 ・十四経脈の取穴部位を解剖学的に理解できる。 ・要穴の理解と治療へ応用することができる。 [到達目標(SBOs)] ･要穴表に記載の経穴について取穴部位を言うことができる。 ･正経十二経、奇経八脈の取穴部位と関連する筋、骨、神経を言うことができる。	3	24	1	○			○		○		
23	○			はりきゅう理論	[授業概要]･鍼灸施術を行うのに必要な基礎知識である用語､用具名称の理解と刺鍼･施灸方法などの技術的方法の理解する共に臨床に必要なﾘｽｸ管理を学習する。 [一般目標(GIO)]･各施術法に必要な基礎用語と用具名称を理解をし､刺鍼と施灸を学習する上で必要な基礎技術の名称の意義と意味を理解する｡また施術上の一般的注意から､施術過誤､副作用､感染症対策､施術禁忌などのﾘｽｸ管理の必要性を理解し臨床時を想定し想像することができる。 [到達目標(SBOs)]･鍼術と灸術の定義の理解と説明ができる｡･用具名称の基礎知識の理解と説明ができる｡･刺鍼･施灸の方法と術式の理解と説明ができる｡･特殊鍼法の理解と説明ができる｡･有痕灸と無痕灸の理解と説明ができる｡･鍼灸療法の禁忌部位の理解と説明ができる｡･施術のﾘｽｸ管理(過誤と副作用､感染症対策)についての理解と説明ができる。	1	24	1	○			○		○		

24	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧理論	[授業概要]あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師として必要な基礎知識の定着をおこなう。 [一般目標(GIO)]あまし治療に必要な基本知識を習得する。 [到達目標(SBOs)]･あん摩､ﾏｯｻｰｼﾞ､指圧のそれぞれの歴史的背景を挙げることができる。･あん摩､ﾏｯｻｰｼﾞ､指圧のそれぞれの基本手技を述べることができる。･あん摩､ﾏｯｻｰｼﾞ､指圧と東洋医学の関連を説明できる。･あん摩､ﾏｯｻｰｼﾞ､指圧の施術上の注意､ﾘｽｸ管理ができる。･あん摩､ﾏｯｻｰｼﾞ､指圧の応用を挙げて説明できる。	1	24	1	○			○		○		
25	○			臨床あはき理論	[授業概要] ･鍼灸あん摩マッサージ指圧の治効理論を理解し、最適な鍼灸治療の選択ができる能力を養う。 [一般目標(GIO)] ･鍼灸あん摩マッサージ指圧刺激が人体に及ぼす影響と、生体反応を理解する。 [到達目標(SBOs)] ･体性感覚、特に触圧覚、温覚、痛覚について、伝導路を含め説明できる。 ･体性 - 体性反射、体性 - 内臓反射、内臓 - 体性反射、内臓 - 内臓反射について、それぞれ具体的に説明できる。 ･鍼鎮痛について説明できる。 ･ゲートコントロールについて説明できる。	2	24	1	○			○		○		

26	○			東洋医学の応用-1	[授業概要] ･1年次に学習した東洋医学の基本事項を臨床に応用するために必要な、臓腑の病理･病証から診断、診察事項の理解、応用、さらに治療法を理解する。･経絡経穴の取穴部位の解剖学的位置を理解する。 [一般目標(GIO)] ･東洋医学的診察診断方法である、望診･聞診･問診･切診の方法、意義を理解し証を立てることができる。また施術の方法とその意義と根拠を理解し臨床に用いることができる。 ･正経の所属経穴の解剖学的位置について理解し実際に取穴をすることができる。 ･臓腑の病証を理解することができる。 ･病証を理解し臨床に用いることができる。 [到達目標(SBOs)] ･臓腑の生理、病証について説明できる。 ･四診それぞれについて説明ができる。 ･正経十四経脈の解剖学的(筋肉･血管･神経など)位置を取穴をすることができる。 ･奇穴の主治を説明でき、取穴部位を言える。	2	72	3	○			○		○		
27	○			東洋医学の応用-2	[授業概要] 1年次、2年次に学んだ解剖学、生理学、あはき理論の知識を、臨床施術に応用できる力を身につける。また、患者に対する的確な説明ができる知識を習得する。 [一般目標(GIO)] ・あはき治療について基本的知識を確認する。 ・あはき治療に関連する治効理論を理解する。 ・あはき治療に必要な、症候からの臨床応用への道筋を理解する。 [到達目標(SBOs)] ･古法あん摩について説明できる。 ･あはき治療に関する道具や手技の説明ができる。 ･感染症対策およびリスク管理とその対策を説明できる。 ･治効理論として、感覚の伝導路、発痛、炎症、鎮痛、ゲートコントロールについて説明できる。 ･関連学説を説明できる。 ･臨床に必要な診察法全般について説明できる。	3	72	3	○			○		○		
28	○			東洋医学臨床論Ⅰ	[授業概要]患者の症状から、あはき治療の適応か否かを判断する能力を養う。あはき施術の治効理論を学習したことをふまえ、患者にとってより良い治療を選択、提案できる能力を身につける。 [一般目標(GIO)]症候に対し、疾患を想定し、あはき治療の適応の判断の根拠を理解する。あはき治療の適･不適の判断後の対処について習得する。 [到達目標(SBOs)]･適･不適の判断をするにあたり、「絶対禁忌」、「相対禁忌」、「禁忌ではない」、「効果がある」に分類することができる。･頸肩上肢の症状に対して、あはき治療の適･不適が説明できる。･腰背臀部の症状について、あはき治療の適･不適が説明できる。あはき治療が不適応の場合の対処法を理解している。･あはき治療適応の場合、適切に治療計画を立てることができる。	2	48	2	○			○		○		

29	○			東洋医学臨床論Ⅱ	[授業概要]専門基礎分野で学んだ知識を基に、疾患の成り立ちについて自ら考える力を養う。その上で、あはき治療において遭遇する可能性の高い疾患の、発症機序を理解させる。 [一般目標(GIO)]あはき治療で遭遇する頻度の高い整形外科疾患について、発症機序、鑑別のための徒手検査の意義を理解する。そのための手段として、ｸﾞﾙｰﾌﾟ討論、調べ学習など、自ら学ぶ時間を確保することで、考える力を伸ばす。 [到達目標(SBOs)]・患者の症例(頭痛、便通異常、顔面麻痺、めまい・耳鳴り・難聴)を基に、想定される疾患を挙げることができる。・想定される疾患の病態生理を説明することができる。・想定した疾患と患者の状態で合う点と合わない点を討論できる。・関連する徒手検査の意義を説明することができる。・現代医学的な考え方による治療方針を、患者にわかりやすい言葉で説明することができる。・治療方針に即した治療穴を選穴できる。	2	48	2	○			○		○		

30	○			東洋医学臨床論Ⅲ	[授業概要] 鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考え方に基づく病態把握・治療方針・具体的な治療方法を理解し、説明出来ることを目標とした授業を行う。 [一般目標(GIO)] ･臨床における主要症候に対して病態把握や適不適の判断ができる知識を習得する。 ･臨床における現代医学・東洋医学それぞれの考えに基づく病態把握や治療方針や具体的な治療方法を理解し、説明が出来る。 [到達目標(SBOs)] ･乳児､小児に特徴的な症状と施術について説明できる。 ･高齢者に多くみられる症状と疾患を挙げることができる。 ･不定愁訴に対して治療方針を立てることができ	3	72	3	○			○		○		
31	○			診療の組み立て	[授業概要] ･鍼灸治療に必要な運動学と、鍼灸の適･不適の判断の基準となる検査の機序を理解する。 [一般目標(GIO)] ･他覚的所見を収集することの意義と､各種検査の機序を理解する。 [到達目標(SBOs)] ･脊髄症鑑別のための理学検査とその意義を説明できる。･神経根症状鑑別のための理学検査とその意義を説明できる。･神経の絞扼障害鑑別のための理学検査とその意義を説明できる。･その他運動器疾患の鑑別のための検査とその意義を説明できる。	2	24	1	○			○		○		
32	○			社会あはき学	[授業概要]あはき法を学び､医療従事者として活動していく上での職務を理解する。また､医療における倫理の重要性について学び､医療の担い手が守るべき倫理規範を身につける。 [一般目標(GIO)]医療関係法規に抵触しないよう､注意事項を理解する。患者の価値観､人間性に配慮することの重要性を認識する。 [到達目標(SBOs)]･あはき法の概要を説明できる。･免許申請､施術所開設の基準､違反に対する罰則を説明できる。･その他の医療･衛生関係法規の概要を説明できる。･法律上の責任を認識した上で､はきの実践を行うことができる。･医療に関わる倫理的問題について説明できる。･患者の権利を理解し､ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄを行うことができる。･生命倫理における様々な見解を理解できる。	3	48	2	○			○		○		
33	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧実技Ⅰ-1	[授業概要]･あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師が医療人である事を自覚することで､衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに､あん摩施術時の姿勢･体位･注意事項などについて学習する。･実技としては､あん摩実技を行う。最初は術者の姿勢､位置､体重移動などと共に､各基本手技を中心に基本動作を理解､実践できるような学習を行う。前期途中から身体部位の施術手順に従って､各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。 [一般目標(GIO)]･医療人として相応しい衛生観念､言動ができるとともに施術時の注意事項などを理解する。･あん摩を行う上で､施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に､各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また､身体各部位の施術手順を覚え､各手技や動作を正しく行える事を目標とする。 [到達目標(SBOs)]･医療人としての衛生観念が身についている。･医療人として相応しい言葉遣い､態度が身についている。･あん摩施術における注意事項などを理解している。･あん摩施術時に正しい姿勢､位置､体重移動を行う事ができる。･あん摩の各基本手技を理解し､正しく行う事ができる。･身体各部位の施術手順を覚え､各手技や動作を正しく行うことができる。	1	72	2	○			○		○		

34	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧実技Ⅰ-2	[授業概要]･1年次に引き続き、身体部位の施術手順に従って、あん摩の各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。後期から、臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患に対して、診察から施術までの一連の内容を学習する。 [一般目標(GIO)]･あん摩を行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える事を目標とする。･臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適応･不適応の判断ができ、それに対応した適切なあん摩施術を行うことができる事を目的とする。また、全身あん摩を一定時間で行えるように構成ができる能力を養う。 [到達目標(SBOs)]･あん摩の身体各部位に於ける施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。･臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適応･不適応の判断ができる。･臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適切なあん摩施術を行う事ができる。･全身あん摩を一定時間内に行う構成ができ、実際に施術を行う事ができる。	2	72	2	○			○		○		
35	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧実技Ⅱ-1	[授業概要]･あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、ﾏｯｻｰｼﾞ施術時の姿勢･体位･注意事項などについて学習する。･実技としては、ﾏｯｻｰｼﾞ実技を行う。最初は術者の姿勢、位置、体重移動などと共に、各基本手技を中心に基本動作を理解、実践できるような学習を行う。前期途中から身体部位の施術手順に従って、各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。 [一般目標(GIO)]･医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに施術時の注意事項などを理解する。･ﾏｯｻｰｼﾞを行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える事を目標とする。 [到達目標(SBOs)]･医療人としての衛生観念が身についている。･医療人として相応しい言葉遣い、態度が身についている。･ﾏｯｻｰｼﾞ施術における注意事項などを理解している。･ﾏｯｻｰｼﾞ施術時に正しい姿勢、位置、体重移動を行う事ができる。･ﾏｯｻｰｼﾞの各基本手技を理解し、正しく行う事ができる。･身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。	1	72	2	○			○			○	
36	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧実技Ⅱ-2	[授業概要]･1年次に引き続き、身体部位の施術手順に従って、あん摩の各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。後期から、臨床でよく使用する各種ﾏｯｻｰｼﾞについて学習する。 [一般目標(GIO)]･ﾏｯｻｰｼﾞを行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える事を目標とする。･また、臨床で良く使用する各種特有な手技について理解し、基礎実技を正しく行える事を目標とする。 [到達目標(SBOs)]･ﾏｯｻｰｼﾞの身体各部位に於ける施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。･結合織ﾏｯｻｰｼﾞについて理解し、基礎実技ができる。･乳房ﾏｯｻｰｼﾞについて理解し、基礎実技ができる。	2	36	1	○			○		○	○	

37	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧実技Ⅲ-1	[授業概要]・あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧は体表面からｱﾌﾟﾛｰﾁすることから、体表観察が正確に行えることは大きな意味をもつ。そこで、前期は身体診察や正しく部位を把握する為に必要な体表解剖を理解、触知できる能力を養う事を重点に行う。・前期途中から指圧実技を行う。最初に指圧施術時の姿勢・体位・注意事項などについて学習する。・最初は術者の姿勢、位置、体重移動などと共に、各基本圧法を中心に基本動作を理解、実践できるような学習を行う。後期途中から身体部位の施術手順に従って、各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。 [一般目標(GIO)]・身体診察や正しく施術部位を把握する為に必要なﾗﾝﾄﾞﾏｰｸとなる骨や主要な筋・動脈等を理解し、触知できることで、正確な診察や部位を把握する能力を養う。・医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに施術時の注意事項などを理解する。・指圧を行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える事を目標とする。 [到達目標(SBOs)]・身体各部のﾗﾝﾄﾞﾏｰｸとなる部位(骨)を理解し、触知できる。・身体各部の主要な筋を理解し、触知できる。・身体各部の主要な動脈を理解し、触知できる。・医療人として相応しい言葉遣い、態度が身についている。・指圧施術における注意事項などを理解している。・指圧施術時に正しい姿勢、位置、体重移動を行う事ができる。・指圧の各基本手技を理解し、正しく行う事ができる。・身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。	1	72	2	○			○		○	○	○
38	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧実技Ⅲ-2	[授業概要]・1年次に引き続き、身体部位の施術手順に従って、指圧の各手技や動作を正しく行えることを目的に行う。後期から、臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患に対して、診察から施術までの一連の内容を学習する。 [一般目標(GIO)]・指圧を行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを目標とする。また、身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える事を目標とする。・臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適応・不適応の判断ができ、それに対応した適切な指圧施術を行うことができる事を目的とする。 [到達目標(SBOs)]・指圧の身体各部位に於ける施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行うことができる。・臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適応・不適応の判断ができる。・臨床でよく遭遇する整形外科的な疾患に対して、適切な指圧施術を行う事ができる。	2	36	1	○			○		○		

39	○			あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧臨床実技	[授業概要]･前期は実技総合試験と一般の患者に対して施術を行う臨床実習7に向けて、各基本手技の技術の向上と施術者の基本動作の確認を行うとともに、簡単な診察から病態を推定し、あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧を用いて施術を構成、実施できるような練習を行う。･後期は筋膜ﾘﾘｰｽなど臨床で活用できるその他の手技療法について学習する。 [一般目標(GIO)]･あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧を行う上で、施術者に負担のない身体の使い方を身につけると共に、各基本手技を正確に実践できることを基本目標とする。また、臨床でよく遭遇する整形外科疾患に対し、決められた一定時間に合わせ、各自で施術を構成し、実施できることを目標とする。･その他の手技療法について学び、基礎的な知識と技術を身につける。 [到達目標(SBOs)]･体表解剖上でﾗﾝﾄﾞﾏｰｸとなる部位(骨)を触知できる。･主要な筋肉を触知し、付着部、作用、支配神経を述べる事ができる。･主な診察点を触知し、疑われる原因疾患を挙げる事ができる。･あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧の各基本手技を正確にできる。･各手技に合わせて適切な基本動作ができる。･臨床でよく遭遇する整形外科疾患に対して、適応･不適応の判断ができる。･臨床でよく遭遇する整形外科疾患に対して、適切にあん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧を用いた施術を行う事ができる。･臨床でよく遭遇する整形外科疾患に対して、一定時間に合わせた施術を構成し実施する事ができる。	3	72	2	○			○		○	○	○
40	○			はりきゅう基礎実技Ⅰ	[授業概要] はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行う。後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、鍼施術を中心として、基本的な鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。また、正しく取穴ができるように体表解剖を重視しながら、取穴実技を行う。 [一般目標(GIO)] 医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。鍼の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて、鍼施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とすると共に、正しく取穴ができるように主要な経穴の取穴実技を行う。 [到達目標(SBOs)] ・医療人としての衛生観念が身についている。・医療人として相応しい言葉遣い、態度が身についている。・鍼施術の注意事項や過誤・副作用を理解している。・鍼道具を正しく取り扱い、保管することができる。・鍼施術時に正しく消毒法を行う事ができる。・鍼の基本実技を理解し、正しく行う事ができる。・安全な施鍼、施灸ができる。・身体各部の代表的な経穴に適切に施鍼・施	1	72	2			○	○			○	○

41	○			はりきゅう基礎実技Ⅱ	[授業概要] はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、灸施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。実技として、前期までは灸実技を中心に灸道具の取り扱いや消毒法なども含めた灸の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な灸施術を中心とした鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。 [一般目標(GIO)] 医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。灸の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて灸施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とする。 [到達目標(SBOs)] ・医療人としての衛生観念が身についている。・医療人として相応しい言葉遣い、態度が身についている。・灸施術の注意事項や過誤・副作用を理解している。・灸道具を正しく取り扱つことができる。・用途に応じて、艾の種類を選択できる。・灸施術時の消毒法を正しく行う事ができる。・灸の基本実技を理解し、正しく行う事ができる。・安全な施鍼、施灸ができる。・身体各部の代表的な経穴に適切に施鍼・施灸ができる。	1	72	2			○	○		○		
42	○			はりきゅう臨床実技Ⅰ	[授業概要] ・治療院勤務の経験を臨床に活かす授業を行う。・医療面接（患者接遇などを含む）の必要性や技法などについて理解するとともに、対人練習を行う事で、円滑な医療面接が行えるよう学習をする。・臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患（肩こり、頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛）に対して、理解を深め、診察から施術までの一連の内容を学習する。 [一般目標(GIO)] ・医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。・医療面接について理解し、適切に行えることを目的とする。・臨床でよく遭遇する肩こり・頸肩腕痛、腰痛・腰下肢痛の病態を理解するともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴に適切に鍼灸施術を行うことができる事を目的とする。 [到達目標(SBOs)] ・適切な医療面接（患者接遇を含む）を行うことができる。・血圧、脈拍を正しく測定する事ができる。・頸肩腕痛、腰下肢痛などの病態（分類、原因など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断、説明することができる。・頸肩腕痛、腰下肢痛などに対して、適切に身体所見をとる事ができる。・徒手検査法の意義・陽性所見を理解し、説明できる。・各疾患の基本的な穴に対し、適切に取穴・刺鍼・施灸を行う事ができる。	2	72	2			○	○		○	○	

43	○			はりきゅう臨床実技Ⅱ	[授業概要] ・治療院勤務での経験を活かし臨床における医療面接などを行う。・臨床でよく遭遇する代表的な整形外科的な疾患のうち、肩関節痛、膝関節痛に対して診察から施術までの一連の内容を学習する。・また、臨床実習前試験の為の授業として、これまで学んだ４疾患に対してロールプレイ実習を含めた臨床実践的な内容を行う。・東洋医学的な治療を行える能力を養うことも目的に、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習を行う。 [一般目標(GIO)] ・医療人として日頃から言動に気をつけ、能動時に学習に取り組む姿勢が身についている。・臨床でよく遭遇する肩関節痛・膝関節痛の病態を理解するともに、医療面接・身体診察、病態の推定を行う事ができ、それに対応した基本穴に適切に鍼灸施術を行うことができる事を目的とする。・また、四診法（特に舌診、腹診、脈診）について反復練習することで感覚を養う。 [到達目標(SBOs)] ・肩関節痛、膝関節痛などの病態（分類、原因など）を理解し、鍼灸治療の適・不適を判断、説明することができる。・肩関節痛、膝関節痛などに対して、適切に身体所見をとる事ができる。・徒手検査法の意義・陽性所見を理解し、説明できる。・各疾患の基本的な穴に対し、適切に取穴・刺鍼・施灸を行う事ができる。・臨床実習前試験として、４疾患に対して医療面接、徒手検査法、病態の推定、取穴、刺鍼、施灸を行う事ができ	2	72	2			○	○		○		
44	○			はりきゅう応用実技Ⅰ	[授業概要] 臨床経験を活かした実技授業を展開する。東洋医学的な治療が行えるように能力の向上を図る。そのために、必要な四診（診察）能力、証の推定、治療を組み立てる能力を養う。またそれに則し、全身的な鍼灸治療を行う。その他、特殊鍼法の意義、方法を学ぶ。 [一般目標(GIO)] ・東洋医学的な考えを基に、鍼灸治療を行う事ができる。・特殊鍼法が実施できる。・2点連続施灸ができる。 [到達目標(SBOs)] ・四診法（舌診、脈診基礎、腹診、背候診、切経）ができる。・証の決定、治療方針、選穴を考える事ができる。・失眠穴への2点5壮/2分を正確にできる。・特殊な鍼灸治療（灸頭鍼、小児鍼、皮内針、隔物灸、良導絡、耳鍼法）について説明および実施ができる。	3	72	2			○	○		○		○
45	○			はりきゅう応用実技Ⅱ	[授業概要] 治療経験を活かしより臨床に即した実技授業を展開する。2年の臨床実技で行われた臨床で良く遭遇する4疾患に対する治療を深めるために、代表的な筋を対象にパルス治療器を用いて、正確にアプローチできるよう練習を行う。さらに応用実技としてスポーツ鍼灸、特殊鍼法を理解し実施できる能力を養う。 [一般目標(GIO)] ・健康医学、産業医学について説明、鍼灸治療を行う事ができる。・整形外科的な代表4疾患に対する治療ができる。・代表的な筋を対象にパルス通電療法ができる。 ・スポーツ傷害の対処法、鍼灸治療ができる。・特殊鍼法が実施できる。 [到達目標(SBOs)] ・健康医学、産業医学について説明および鍼灸治療を行う事ができる。 ・代表的な筋に対して、正確な刺鍼ができる。 ・整形外科的な代表4疾患に対する治療ができる。 ・鍼通電療法を正確に行う事ができる。 ・スポーツ傷害に対するRICE処置ができる。 ・各スポーツ傷害について説明および鍼灸治療ができる。 ・現代医学的な考え方に基づき、一連の鍼灸治療を行う事ができる。	3	72	2			○	○		○		○

46	○			臨床実習Ⅰ	[授業概要] 鍼灸科附属施術所において、患者体験、臨床見学を通して鍼灸治療の実際に触れ、はり師・きゅう師としての将来像をイメージさせる事で、何を学び何を必要とされるのかを理解する。また、スポーツの現場や介護施設、病院など将来関連すると考えられる臨床現場を見学する事で、医療人として幅広い視野を育てるとともに、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会を与える。 [一般目標(GIO)] 患者体験、臨床見学を通して、鍼灸の効果や患者対応などの臨床の実際を認識することで、医療人としての倫理観や臨床能力（知識・技術・態度）の必要性について理解する。また、鍼灸医学を学ぶ学生としての自覚、日頃の授業の大切さ、取り組みに対する意識の向上を図ることを目的とする。また、医療関連施設などを見学することで幅広い視野をもって、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師としての将来像をイメージする力を身につける。 [到達目標(SBOs)] ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。・臨床実習施設においての鍼灸施術の流れを理解することができる。・課題レポートを適切に書くことができる。・2年、3年の臨床実習を見学し、学内での到達目標を理解することができる。・臨地見学実習にて、指導員や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従う事ができる。・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めた事をレポートにまとめ	1	45	1			○	○	○	○		
47	○			臨床実習Ⅱ	[授業概要] ・臨床実習Ⅱでは臨床実践を通して、あはき治療以外の施術所業務などを学習するとともに、診察技能の習得、レベルの向上を図ることを目的とする。前期は医療面接を後期には医療面接・身体診察内容から病態の推定・治療方針・選穴を考える。また、臨地実習にて、学外施術所においての施術見学および業務体験を行う。また、医療施設、スポーツ、介護施設等の臨床現場を見学する事で、医療人として幅広い視野を育てるとともに、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会を与える。 [一般目標(GIO)] ・２年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。・病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解させる。 ・SOAPに沿った診療録（POMR）を記載することで、治療の振り返りを行い、気づきを促し、今後の能力向上に努める。・学内・学外にて、はき施術所の業務体験を行う事で、治療以外の業務の大	2	45	1			○	○	○	○		

					[到達目標(SBOs)]・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる、 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設においての鍼灸施術の流れを理解することができる。・教員の指示の下、適切な医療面接（質問法、傾聴、共感）を行う事ができる。・教員の指導の下、適切な身体診察（特に、血圧測定・脈拍確認、徒手検査法）を行う事ができる。・診察所見から、グループ内協議で病態の推定、治療方針の決定、選穴ができる。 ・治療後、効果の判定を正確に診る事ができる。・治療後の振り返りで、不足点、改善点などを明記できる。・S.O.A.P.に従って適切な診療録が記載できる。・施術所業務を円滑に行う事ができる。・臨地見学実習にて、指導者や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従う事ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めた事をレポートにまとめる事ができる。											
48	○			臨床実習Ⅲ	[授業概要]･臨床実習Ⅲでは､附属施術所に通所されている1人の患者に対し､数人のｸﾞﾙｰﾌﾟで4回の継続治療を学生が主体となり行うことで､病態の変化を経過観察し､改善点などの振り返りを行うとともに､症例報告書を作成しｸﾞﾙｰﾌﾟ毎に症例発表を行う｡･後期には､卒業に向け一人で一連の鍼灸施術を行うことで個々の不足点を確認､改善を図るとともに､鍼灸治療の難しさや鍼灸師としての責任感を再確認することを目的に行う｡･また､一般患者に対してあん摩･ﾏｯｻｰｼﾞ･指圧の手技を用いて施術を行うことで､実技授業で培った技術を臨床実践させることを目的に行う｡ [一般目標(GIO)]･臨床実習Ⅲでは臨床実践を通して､診察内容から病態の推定､治療方針の立案､選穴､施鍼､施灸など一連の鍼灸施術を一人で行うことができることを目標とする｡また､同様に患者の状態に合わせて､あん摩･ﾏｯｻｰｼﾞ･指圧による施術を行うことができることを目標とする｡･治療の振り返りにて､個々の未熟な点について気づきを促し､今後の自主的な能力向上に努める姿勢を育成する｡ [到達目標(SBOs)]･医療人としてふさわしい身なり､衛生概念が身についている｡･患者､研修生､指導者に対して挨拶･自己紹介ができる､･研修生･指導者の指示に従い適切な言動ができる｡･臨床実習施設においての鍼灸施術の流れを理解することができる｡･教員の指示の下､適切な医療面接(質問法､傾聴､共感)を行う事ができる｡･教員の指導の下､適切な身体診察(特に､血圧測定･脈拍確認､徒手検査法)を行う事ができる｡･診察所見から､一人で病態の推定､治療方針の決定､選穴ができる｡･治療後､効果の判定を正確に診る事ができる｡･治療後の振り返りで､良かった点､不足点､改善点などを明記できる｡･S.O.A.P.に従って適切な診療録が記載できる｡･患者の状態に応じて､あん摩･ﾏｯｻｰｼﾞ･指圧の手技にて適切に施術を行う事ができる｡	3	45	1			○	○				

49	○			臨床実習Ⅳ	[授業概要]臨床実習Ⅳは臨地実習であり、鍼灸あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧を行っている実習認定施設の臨床現場に於いて実習を行うものである。 [一般目標(GIO)]臨地実習先の指導員の指示に従い臨床の実際を見学･参加することで、学内で行ってきた実技や臨床実習の内容との違いなどを体感することで、実際の臨床の難しさや厳しさなどを認識することを目標とする。 [到達目標(SBOs)]･医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。･患者、指導者に対して挨拶･自己紹介ができる。･指導者の指示に従い適切な言動ができる。･臨地実習施設の鍼灸あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧施術の流れを理解し、適切に行動することができる。･臨地実習施設のｽﾀｯﾌや患者と適切なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとる事ができる。･指導者に対し、適切な報告、連絡、相談ができた。･指導者の指導を素直に受け入れる事ができる。･能動的な姿勢で実習に取り組む事ができる。･指導者の施術内容を理解する事ができる。	3	45	1			○	○	○	○		

50	○			医学準備教育	[授業概要]・鍼灸ﾏｯｻｰｼﾞ教育を受けるにあたり必要な基礎知識である生物学、化学の基本事項について解説する。・あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ、鍼、および灸の歴史について解説する。・医療職として患者の支援を行うために必要となる、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝおよびﾏﾅｰについて、基本事項を解説し、演習やｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞを交えながら、実践できるように促す。・医療倫理、およびあん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師、はり師、およびきゅう師にひつような職業倫理について解説する。・東洋医学を理解する上で必要な、あはきの歴史について日本、中国、諸外国を年代順に学習する。 [一般目標(GIO)]・解剖学、生理学など専門基礎分野を理解するための基礎となる生物学事項を理解する。・あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧各々の起こりと、その変遷を理解する。・鍼と灸の起こりと、その変遷を理解する。・あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師、はり師、およびきゅう師として患者の支援を行うために必要なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基本を理解する。・医療専門職としてのﾏﾅｰを理解する。・医療倫理、あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師、はり師、およびきゅう師としての職業倫理を理解する。・演習およびｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞを通して、あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師、はり師、およびきゅう師に必要なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技法を実践・応用する。・あはきの歴史を日本と中国、韓国、ｱﾒﾘｶ、ﾖｰﾛｯﾊﾟと国別、年代別に理解するとともに各国の関連性を理解し説明することができる。 [到達目標(SBOs)]・科学的知識の基礎となる主要な単位を理解し、説明することができる。・原子の周期表と主要な元素記号を理解し、説明することができる。・ｲｵﾝについて概略を説明することができる。・ATPとｴﾈﾙｷﾞｰ代謝の概略について説明することができる。・あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師、はり師およびきゅう師としての職業倫理とﾏﾅｰを理解し、適切なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取りながら患者支援につなげることができる。・古代中国から現代中国でのあはきの歴史的変化を理解し説明できる。日本におけるあはきの歴史を理解し説明することができる。・諸外国でのあはきの歴史と関連性を理解し説明することができる。	1	24	1	○			○				
51	○			研究基礎	[授業概要]・研究の意義と研究の基礎知識を学ぶために、研究の基礎知識、文献検索方法、ﾃﾞｰﾀ分析などについて学び、全体を通して実際に研究を行ない発表する。 [一般目標(GIO)]・研究の意義・目的、研究方法、研究の一連のﾌﾟﾛｾｽについて理解する。・鍼灸に関する先行研究について、検索方法(和文・英文)を学び、検索力を身につける。・鍼灸に関する研究を行い、研究発表を行うまでの知識を習得できるようになる。 [到達目標(SBOs)]・研究の基礎とﾌﾟﾛｾｽについて学び、研究の意義と目的を把握することができる。・研究の手順を理解し組み立てを行うことができる。・和文・英文文献の検索方法を理解し、先行文献の検索を行うことができる。・鍼灸に関する研究の資料収集、分析・統計解析、論文作成などの実践を通して学ぶことができる。	2	24	1	○			○		○		

52	○			災害と鍼灸・開業支援	[授業概要]・災害発生のﾘｽｸと災害時に鍼灸の行える支援活動内容をを説明する。・被災地での状況を想定し、医療ﾁｰﾑの一員として他職種連携のと相互関係を説明する。・被災地において鍼灸の有効性と被災者への理解を深めさせる。・施術所開設時に必要な法令などの知識および療養費の取り扱いなどについて実務的に解説する。[一般目標(GIO)]・鍼灸師のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ支援活動内容を理解する。・災害発生時の被災地の状況を想定し、鍼灸師の現場での役割を理解する。・他職種連携を認識し、医療ﾁｰﾑの一員として被災者支援を理解する。・施術所開設時における関係法規と手続きを理解する。・施術所の開設と運営に必要な広告の知識について理解する。・施術所の運営に必要な税務について理解する。・あん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧、鍼および灸の施術にかかる療養費の取り扱いの概要を理解する。[到達目標(SBOs)]・今後の災害発生ﾘｽｸを考慮して、被災地における鍼灸師としての役割を説明することができる。・被災地の状況を想定して、限られた環境において適切に鍼灸支援を行うことができる。・医療人として被災者への理解を深め、被災者支援に参加することができる。・他の医療ﾁｰﾑを理解し、その一員として他職種連携を行うための鍼灸師としての役割を説明することができる。・実際の現場を想定し、変化しうる状況の中で臨機応変に判断して被災者支援を行うことができる。・施術所の開設および業務の開始に要する法令を説明することができる。・施術所の運営上、行うことが想定される広告の種類を説明することができる。・施術所の開設と同時に税務署への届け出が必要なことや、確定申告などの税務を担うことを説明できる。・療養費制度の概要、およびその運用方法の概要を理解し、療養費申請書類を作成することができる。	2	24	1	○			○		○		
53	○			あはき総合学	[授業概要]鍼灸師およびあん摩ﾏｯｻｰｼﾞ指圧師として必要な基礎知識の定着を確認する。1年次から3年次で学んだ内容を臨床の場で活用できる力がついているかを確認する。 [一般目標(GIO)]あはき治療で遭遇する頻度の高い疾患について、鑑別、適不適の判断、治療方針を立てることができるかを確認する。 [到達目標(SBOs)]次の点について、演習問題の形で解答することができる。・あはき師に必要な、人体の解剖と生理。・あはき師に必要な、東洋医学的基礎知識。・あはき師に必要な、疾病の成り立ち。・施術に必要な衛生的概念。・具体的な症例からあはきの適応・不適応の判断。・具体的な症例に対し、現代医学的な考え方に基づく治療方針。・具体的な証例に対し、東洋医学的な考え方に基づく治療方針。・はき治療方針に即した治療穴の選穴。・あまし施術方針に即した手技の選択。・患者に対して適切な生活指導および運動療法。・疾病予防のための知識。	3	192	8	○			○		○		
合計					55科目	2910単位時間(111 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級及び卒業の認定は、学業成績及び単位の修得並びに出欠状況等により教務会の議を経て校長が決定する。	1学年の学期区分	3期
	1学期の授業期間	12週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。